

B鑑賞ア(ア)(イ)(ウ)、イ(ア)(イ)(ウ)				
音楽Ⅰワークシート	日本の伝統音楽に親しもう		教科書 『高校生の音楽Ⅰ』	P102-103 日本の伝統音楽 P106 能の音楽に親しもう P142 日本における西洋音楽の展開
	氏名		評価	

① 「日本の伝統音楽」(教P.102)を読んで、次の問いに答えよう。[知]

1) 日本の伝統音楽について、次の文章を完成させよう。

日本には、成立時期の異なるさまざまな音楽が併存している。その理由の一つとして、それぞれの音楽を享受する社会的グループが異なっていたことが挙げられる。近代になるまでは、雅楽は()社会で、能楽は()社会で伝えられ、歌舞伎や文楽は()の間で楽しまれていた。日本の伝統音楽には、()を使う音楽が圧倒的に多く、楽器のみのものはごく一部である。また、日本の伝統音楽では、音を聴いて覚え、()ことが重視され、()の音を言葉に置き換えて唱える「()」が活用されている。

2) ア～キの日本音楽の主な種目の説明を読んで、成立時期(古代・中世・近世)を()に、各種目の名称を()に書こう。

主な種目の名称：雅楽 声明 平家 能楽 三曲 歌舞伎 文楽

- ア 地歌、箏曲、胡弓楽、尺八楽の総称で、江戸時代には主に盲人音楽家が演奏した。…()〔 〕
- イ 仏教とともに伝わった単旋律の声楽で、仏教儀礼の際に僧侶によって唱えられる。…()〔 〕
- ウ 音楽と舞踊が融合した演劇で、江戸時代には幕府の公式行事の際に演じられた。…()〔 〕
- エ 平安時代に整理された儀式音楽で、宮中や寺社で用いられた。…()〔 〕
- オ 義太夫節を伴奏音楽にした人形劇で、町人文化を背景に発展した。…()〔 〕
- カ 『平家物語』を琵琶の伴奏で語る音楽で、琵琶法師によって演奏された。…()〔 〕
- キ 演劇と舞踊、さまざまな音楽が一体となった歌舞劇で、町人を中心に流行した。…()〔 〕

② 「呂中干の唱歌を覚えよう」(教P.106)を読み、次の問いに答えよう。

1) 次の文章を完成させよう。[知]

能の見せどころは()の舞である。舞の音楽の多くは、()によって繰り返される「呂中干」という旋律を基本としている。呂中干は()つの短いフレーズからなり、曲や()に合わせて()を変えたり()を加えたりして、さまざまな雰囲気表現し分けている。

2) 呂中干の唱歌を聴いて、ア～エを正しい順番に並べよう。[主/知]

(→ → →)

- ア：ヲヒャヒュイヒョイウリ
イ：ヒウルイヒョイウリ
ウ：ヲヒャライホウホウヒ
エ：ヲヒャライヒウヤ



「呂中干」唱歌

③ 《安宅》《高砂》《井筒》《羽衣》(教P.107)について、次の問いに答えよう。

1) あらすじを読んで、ア～エの説明に当てはまる能を()に書こう。[知/主]

- ア 松の木が老夫婦の姿となって現れ、二人の絆と天下の泰平を祝福する。…()
- イ 天人が「羽衣を返してほしい」と懇願し、美しい舞を舞う。…()
- ウ 旅の僧の夢の中に、在原業平の面影を懐かしむ紀有常の娘が現れる。…()
- エ 弁慶が、主人である義経をわざと打って修羅場を切り抜ける。…()

2) 4つの舞の音楽を聴いてそれぞれの呂中干の特徴を感じ取り、あらすじと関連付けて、その違いを書こう。[思・判・表/主]

《安宅》	《高砂》
《井筒》	《羽衣》

3) 2)で書いたことをもとに、意見交換しよう。[思・判・表/主]

④ 「謡に挑戦しよう」(教P.106)について、次の問いに答えよう。

1) 次の文章を完成させよう。[知]

能の物語は「謡」によって進行していく。謡は、せりふ部分の「()」と旋律的部分の「()」に分けられる。後者には、息を強く出しながら力強く謡う「()」と、旋律を重視して繊細に謡う「()」という2つの発声法があり、()や()に応じて謡い分ける。

2) 《高砂》(教P.106)のツヨ吟の謡を聴いて、まねて謡おう。[思・判・表/主]

3) 《羽衣》(教P.106)のヨヲ吟の謡を聴いて、まねて謡おう。[思・判・表/主]

4) 謡った感想や、能や謡について気付いたことを書こう。[思・判・表/主]

⑤ 「狂言の音楽」(教P.107)について、次の文章を完成させよう。[知]

狂言は()を中心とする演劇だが、歌や()、囃子の入る演目も多く、音や音楽が重要な役割を果たしている。せりふには、多くの()が用いられる。